

★最優秀賞★

バケツ稲を体験して

浅川町立浅川小学校 五年

岡 部 陽 香

私は、五年生でバケツ稲を体験して思った事が四つあります。

まず一つ目は、お米を作る大変さです。私は、夏休み中に水やりをわすれてしまった日が何日かありました。そのせいで、葉が茶色になってしまいました。バケツ稲で大変なのに、おじいちゃんやおばあちゃんとは、とても大きな田んぼでお米を作っているの、水を入れわすれただけで全部の稲がかれてしまうし、稲をかる時だって大きい機械がいるし、たくさん時間がかかります。なので、大変なことを、毎年やっている農家さんなどは、本当にすごいと思います。手間がかかっているからこそ、おいしいお米が作れるのだと思いました。

二つ目は、お米も花がさくと気づいたことです。私は、稲の観察をして、初めて見た物があります。それは、お米が実る前にできる白い花です。私は花を見たことがなかったの、初めて見た時はこれが本当に

花なのかなあと思ったけれど、お米ができたので、とてもびっくりしました。ほかにも、稲を近くで見ると、葉にはたての線が入っていることや、米のでき方などを知れて、とてもよかったです。次は、野菜や花も観察してみたいです。

三つ目は、お米、食料の大切さです。バケツ稲は、準備や水やりなど大変でした。だから、食べ物はとても大切だなと思いました。これから、作った人の思いや願いを考えるなどして、粗末にしないようにしたいです。お米は、いつも家にあったので、私たちのために、お米を毎年作ってくれているおじいちゃんやおばあちゃんたちなどに感謝したいです。私も、田植えや稲かりなど、少しお手つだいした時があるの、その時は次の日がきん肉つうになるほど大変でした。これだけの手間がかかってできるお米はとてもすごいなあと思いました。

四つ目は、稲の成長です。授業で、稲の観察をした時に、前回の観察記録とくらべてみると、くきの太さや葉の長さや幅などとても大きくなっていました。私は、短い間でこんなにのびるんだとてもおどろきました。水をあげるだけで成長する植物のすごさを感じました。

稲の観察では、お米の大切さやつくる人たちの苦労などが分かりました。だから、とても良い経験ができたと思います。これから、家でやっている田植えなどもお手伝いしてあげたいです。バケツ稲を育てて、貴重な体験ができたので、本当によかったです。

★優秀賞★

苦労してがんばった先に

石川町立石川小学校 五年

鈴 木 花 華

今年初挑戦の米作り。初めは楽しみと不安の二つの気持ちがあった。わたしの家は農家で、米作りには多くの手間がかかると知っていたからだ。四月から育てていくうちに、不安が増していった。

一学期が終わり、夏休みが始まった。約四十日間の家での管理。

「夏休みの間は、自分の家でお世話をしてください。」

先生にそう言われ、一生けん命お世話をした。毎日自分だけでは、水をやれなかった。そんな時は、お父さんやばあちゃんがやってくれた。だから、とても感謝している。

きちんとお世話をしていたがいもち病になってしまった。お父さんに、

「いもちになっちゃったから、うまく米ができないかもしれないな。」

と言われ、ますます不安になった。でも、病気のことは考えないでおいしいお米を食べられるということだけを想像して、一生けん命育てた。お父さんが薬をふってくれた。そのおかげで、学校に持っていくころには、あざやかできれいな色になった。

ついに、稲かりの日がやってきた。とても晴れていて気持ちの良い日だった。「上手くかれるかな。」半分はドキドキ、もう半分はワクワクしていた。不安はなくなった。

稲かりをする一週間ほど前に、台風がきた。休校になり、家で過ごしていた。その日は雨が強く、稲に負たんがかかるとはないかと心配した。先生方が稲を屋根のあるところに移してくれていた。ありがたかった。でも、学校に行くと台風のせいかわからなかったけれど、稲がたおれて地面にっいていた。「どうしよう。」そう思ったわたしは先生に稲がたおれていることを報告し

ひもをもらった。そして、あいさつをし教室を出て、急いで稲の所へ行った。一人では大変だったけれど、稲のためにがんばってひもで固定した。

米づくりの何もかもが初挑戦だったわたしは、稲かりの仕方が分からなかった。初めに先生がお手本を見せてくれた。

「かる方向は真っすぐではなくて、ななめ上にかります。」

友達とペアを組み、先生に言われた通りにやった。なかなかかれなくて、「こんなに大変なんだ。」と実感した。

稲を干し、脱くともみすりを終え、収かく祭を開いた。とん汁と自分達で作ったご飯はとてもおいしかった。自分達が育てたお米を食べるのはもったいなかった。でも、苦労してがんばった先に、おいしく食べることができたから、良かった。とても楽しかった。

不安があっても苦労があってもがんばったこの経験は大人になっても生きるはずだ。私は将来家の仕事を手伝いたい。そして、愛情のこもったおいしいお米を作りたい。このたくさん思いは、一生忘れない。

★優秀賞★

初めての稲作り

石川町立野木沢小学校 五年

山崎 姫奈

「すごい。」

私は、つい言ってしまいました。なぜなら、私達が苗植え、水やり、稲刈り、だっくと、いろいろな事をして育ててきた稲が、私達がいつも見ている白米になったからです。

生まれて初めて、私は、今年、バケツ稲作りを行いました。

「バケツ稲は、すごく大変です。」

と、JAの方が、話のちゅうに言っていたのを思い出し、その事を思いながら、苗を植えました。

最初に苗を植えた時は、まだ、三本を同時につまめるぐらい細かったです。

苗を植えてから二か月ほどたつと、どんな生長していきました。水はすぐになくなり、バケツにたっぷり水を入れても、一日もたてば、四分の一ぐらいしか残っていませんでした。

夏休みには、合奏練習に来た時の朝に、

水をあげました。

夏休みのお盆明けで、ずっと見ていましてした。その間は、先生方が水をあげてくださったっていました。稲を見てみると、休み前とはちがって、稲の色がこくなっていました。穂やおしべが出ていました。

秋になると、あまり水がなくならなくなっていました。そのころから、稲がちよこちよこさな粒がありました。それは、すごく固くなっていました。

みんなの稲もおうど色になり、穂が重そうに垂れ下がってきました。

そして、やっと稲刈りをしました。しかし、まだ、だっこくがあります。だっこくの仕方は、穂のあるところで稲を切り、わりばしに稲をはさみ、袋の中でおもいっきり引っぱります。すると、その勢いで、パチパチともみが稲から取れます。

これまで、苗植え、水やり、稲刈り、だっこくと、いろいろな作業がありました。それを体験してみて、すごく大変だなあと思いました。社会科の米作りの学習だけでは、実感がわかなかったかも知れません。農家の方達が続けてくれていて、すごいことだと思いました。

これからも、農家の方々が作ってください

たお米、一粒、一粒、大事にいただきたい
と思っています。

★優秀賞★

バケツ稲ってすごいな

平田村立小平小学校 五年

関根 僚 哉

「バケツ稲か。うまく育つのかな。」

小平小学校の五年生は、総合学習でバケツ稲を育てます。ぼくの家では、米を作っているの、米作りの大変さは何となく分かっていたいました。だから、バケツで育つのかと不安でした。

五月に、JAの渡辺さんと宗像さんに来ていただき、田植えをしました。苗を植えるには、まず土作りが大切なこと、田植えの後の水の管理がとても重要なことなどを分かりやすく教えていただきました。田んぼでの田植えは、機械で土をおこしたり、水を入れたり、作業が三日間ぐらいかかります。でも、バケツという小さな田んぼで

は、三十分ぐらいで全て作業が終わりまして。四本の苗は、まだ小さいけれど、ふかふかの土に植えられて、気持ちよさそうでした。「早く大きくなれ。」と願いながら、そのためには、しっかり育てていかなければいけない、と思いました。

田植えをして、数日が過ぎ、水をやりに行くと、青々としてきれいな苗が、少し伸びたようでした。また、数日経つと、今度は茎の数が増えていました。分けつしたので、分けつが始まったので、水をたくさん入れて、大きく生長するように気をつけました。観察するたびに、いろいろな変化が見られ、おもしろいなと思いました。

夏休みが終わると、稲は、一メートルを超える高さになりました。葉は、青々としげり、茎は太く、しっかりと根付いていました。ぼくは、稲の花を自分の目で見たいと思いました。インターネットで調べてみると、稲の花は数時間しか咲かないとありました。見逃してしまうことがないように、毎日観察しました。校庭に出るときには、いつも稲を見ました。すると、穂から小さな白い角のような物が出ていました。花でした。運良く小さな稲の花を見ることができました。稲の花も咲き、大きく育ったので、たくさん米がとれるだろうと楽しみに

なりました。

九月になり、茎や葉が茶色に変わってきた頃、穂に黒い点があることに気づきました。インターネットで調べてみると、いもち病だと分かりました。JAの方が、

「病気になったら、他の稲にうつってしまったから、はなしておくんだよ。」

と説明してくださったことを思い出し、すぐにバケツをはなしておきました。

十一月の収穫では、稲が病気になったので、米がとれないのではないかと心配しましたが、脱穀し、もみすりをするときいな玄米になりました。いつも家では、機械でやってしまうのですが、手作業での脱穀やもみすりは、とても楽しかったです。

自分で稲を育ててみると、稲の生長によって喜んだり、落ち込んだりするものだということがわかりました。今度、家で米作りを手伝うときは、愛情こめて手伝いたいです。

★優秀賞★

初めての米作り

平田村立蓬田小学校 五年

橋 本 梨 沙

わたしにとって、バケツ稲が、人生で初めての米作りでした。だから、わたしの頭の中には、これから始まる米作りに対して、「どんなふうには育つんだろう!」という楽しい気持ちと、「どうやるのかな?」「これから何をすればいいのだろう?」という不安な気持ちがありました。

最初の作業は、「田植え」でした。まず、土をたっぷり入れて、さらに水も入れました。それだけでバケツは重く、力の弱いわたし一人では運べない重さになっていました。次に、土をかき混ぜて代かきをしました。これをしっかり行わないと、土に水がたまらず良い米を育てることができません。最後に、もち米の苗を植えました。作業が終わったとたん、急に「これから、どうしよう!。」という気持ちになりました。なぜなら、水のたし方も分からず、バケツ稲の前であたふたしてしまって、何もできなかったからです。「あんなに重いバケツを運ぶこ

とはできないし、友達に手伝ってもらうしか方法はない。もちろん、観察のときにバケツを動かすことだってできないだろうな。」実際、ほんの少ししか動かすことができず、一歩歩くのもやっとの感じでした。

次の日、「友達にたよってはいけない。友達だって、やることあるのだから、何でも自分でやってみよう!」と決意しました。そう気持ちに切りかえたので、バケツを少しずつでもいいから動かすことでさえ、うれしくなりました。ゆっくりゆっくりバケツを動かしました。すると、バケツを最後まで動かすことができました。そのときの達成感は忘れません。このとき、わたしは「やれば何でもできる!」ということを学びました。それから、観察のときのバケツの移動はすべて自分一人で行いました。愛情をもって稲を育てていくうちに楽しい気持ちが増え、稲かりが待ち遠しくなりました。

そして、むかえた稲かりの日。わたしは心がおどりました。かまをにぎったのも初めてでしたが、今までの作業や苦労、「やれどできる!」を思い出しながらやりとりしました。その後、はせがけをしてから、茶わんを使って脱こくもしました。一粒一粒大切に取りました。時間はかかったけれど、

その分、お米の大切さも分かりました。もちつきでは、うすときねを使って昔ながらの作業で行いました。ぺったん、ぺったんという音も気持ちがよく、みんなで作ったおもちは特別においしかったです。

わたしは、米作りを通して「失敗したら成功のもと」「成功したらラッキー」と前向きな気持ちになれました。と同時に、米作りで多くのことを学びました。「何でもやればできる!」ということがわたしにとって一番の学びです。これからは、この気持ちを生かして、何でも積極的にチャレンジしたいと思います。

